

講座紹介

講座名	「衛星のアンテナについて考えよう」	
内容	人工衛星には地球観測衛星や、通信放送衛星、科学衛星など色々な種類があります。その衛星から送られてくる情報は、天気予報やテレビ中継、GPSなどの形で私たちの毎日の生活に役立っています。衛星が地上へデータを送るのに重要な役割を果たすのがアンテナの存在です。衛星で使われるアンテナには様々な形がありますがその違いはどんなものでしょうか。この講座では、最前線で活躍するエンジニアより、QPS-SARで使用されている大きなアンテナの仕組みや大切さ伝えます。	
日にち	2021年1月6日(水)	
時間	14:00～(講座は約40分)	
対象	小学校高学年～中学生(推奨)	
定員	18席	
講座料	無料(展覧会へご入場されている方が対象です。講座のみは受けられません。)	
参加方法	<p>事前予約制</p> <p>※ 予約フォームから事前にお申込みをお願いします。</p> <p>※ 新型コロナウイルス感染予防のため、当日はマスク着用、手指の消毒のご協力をお願いいたします。講座の前に検温をさせていただきます。体調のすぐれない方はご来場をお控えください。</p>	
講師	(株)QPS 研究所 研究員 / 博士 (工学) 福田 大	
プロフィール		<p>九州工業大学工学府電気電子工学学科修了。工学博士。 在学中から宇宙環境技術ラボラトリーの「鳳龍四号 AEGIS プロジェクト」で18カ国から来た留学生と日本人学生共同で実験衛星の開発・運用まで関わっている。 2019年にQPS研究所に入社後、現在は小型レーダー衛星のアンテナの性能改善を担当。QPS研究所が開発・特許取得の大型・超軽量展開型アンテナは世界最大手の宇宙産業企業でも注目されている。レーダー観測で取得できる画像の質はアンテナの性能が大きく影響するため、性能を上げるべく研究、開発中。</p>